

タットン会 通信

2006. 6. 17

44号でもお知らせいたしましたが、今年度（2006年度）のタットン会は助成金の申請は行ないませんでした。従って、施設使用料、シャトルやボール・ラケット・大会賞品等の消耗品・中高生ボランティアの旅費等々の費用を私たち自身で捻出していかねばなりません。より多くの方々にご協力を頂きながら、一緒に障がいに対する理解を深めあっていきたいと思っています。よろしく御願いします。

- ◎ タットン会ホームページ <http://www.geocities.jp/tattonkai/>
『タットン会』と入力しても検索できます。皆様からの掲示板コメントもお待ちしております。
- ◎ 日時・場所についての確認のみ → ボランティアセンター 046(825)0017

お陰様で、5年目タットン会は、2006年5月20日にサブアリーナでスタートすることが出来ました。この日は、また、皆さんとの会に対する意気込みや会の必要性をあらためて感じる日ともなりました。

ところで、5月31日（水）15:00～15:30の FMブルー湘南ラジオ（78.5MHz）の放送を聴いて下さいましたか？ 昼間とあって、なかなか聴ける時間ではなかったと思います。プロの歌手・は～みん♪さん（鈴木初音さん）が聞き役として、上手く我々を誘導して下さいました。お話を頂いた内容は、1. 目的趣旨 2. タットン会の誕生 3. 活動の様子とボランティア 4. 課題等です。最後に～1. これからタットン会に参加しようと思われたチャレンジャーの保護者様は、ボランティアさんをお連れして参加して頂きたい。（ただし、広い体育館でも現状では狭い状態ですので、思うように活動は出来ないかも知れません）2. タットン会からは、お金では買うことの出来ない多くの財産をいただき、自分自身を磨く場だと思っている。3. これから多くの皆様と『余暇支援』や『進路』等についても考え・悩んでいきたい。～とお話を頂きました。

放送終了後、聴取者の方から『ボランティアの話に、感銘を受けました～』とメールを頂きました。一緒に出演した浜島さんは『良いボランティアを目指そうとしていたが、そもそも良いボランティアのマニュアルなんてないんだ、迷いながらもチャレンジャーたちと関わっていくことが大切だし、それがチャレンジャーや私達にとっても役に立つことなんだ』というようなコメントをなさいました。私も同じ考えです。

さて、今年度は助成金を頂かずに会を進めています。また、混雑してしまう事の多かった受付方法を、出席表の変わりにチャレンジャー（お子様達のこと）カードやボランティアさんの振り分け記入用紙を用意する方法に変えてみるなど。今までの運営方法を少し変更したり、新しい用具を開発しようとする動きもあります。いろいろな意味で試行錯誤の年になると思います。

20日は、ディズニービー体操ではなくラジオ体操をしました。すると、ラジオ体操のアナウンスを覚えていたチャレンジャーが元気な声で音頭をとってくれました。5年目のスタートとして嬉しい場面でした。

後半は、バドミントン新タットンルールの講習会。横浜ラポール施設を見学してきた石田様・林様、車椅子の方用のラケットつくり（上の写真）をお手伝い頂いた平沢様のご友人、事務局員、ボランティアさん、チャレンジャー、保護者兼ボランティア、県立保健福祉大のボランティアサークルの方…盛り上げて下さる多くの方々のお力により、気持ち新たなタットン会のスタートとなりました。（チャレンジャー27名）

終了後、事務局兼保護者を代表して鈴木様から、『消耗品費等捻出（10万円前後）のため、チャレンジャーの家族単位に会費を頂くという案はいかがでしょう？（A案=年会費制 ⇔ B案=参加毎の参加費制：100円?200円?300円?500円?）6月（本日）のタットン会にて決定できればと思っております。』と会費についての提案がありました

5月20日 44回目タットン会 感想・参加者カード・気がついたこと～より

※1 会費は、必要なだけいくらでも構いません。足りなくなつて事務局さんが苦しい思いをしないよう余裕のある金額で集めて下さい。本当は年一回の方が面倒ないと思います…。年度途中からの参加者は、そこからの月割りで。（I様）



新型ラケット誕生(?) 2006. 5. 20

- ※2 多くのボランティアさん（保護者を除いて）の支えに甘えて参加してきたのですが、やはり必要経費の面で問題があったことに、改めて今までの怠慢を痛感しました。必要経費は是非お支払いさせて頂きますので、今後ともよろしく御願いします（？様）
- ※3 ～自分のリズムを大事にして楽しむことだと思います。（ハリー様）
- ※4 ～バドミントンを始めた瞬間から、目の輝きが違うのを感じました～試合でも大活躍でした（ハル様）
- ※5 ～ビーズの入ったボールにしっかりと反応・対応できていたようなので、普通の球でも挑戦してみて下さい（O様）。

— 皆様の感想を載せることが出来ずに、ごめんなさ～い！ —

しうがい児者の

進路と余暇を考える

パート 8

「職業リハビリテーション」という用語がある。つまり、しうがいを有する方が医学的に継続加療を受け、学校あるいは社会教育を施されながら、日常生活を円滑に送るように職業に就く訓練や職場を探す活動を周囲と協調しながら進めていく行為である。

あるアンケート結果によると、ほとんどのしうがいを有する方に勤労意欲があるという。その理由として「自分の力を試したい」「より充実した社会生活を送りたい」「働くことでお金の有り難さや働いていることを実感したい」などの回答が大半なのである。「働くことで何かを吸収したい」「社会の一員として貢献したい」という気持ちが勤労意欲につながっているようである。

ところで、米国のリハビリテーション法では、しうがいを有する方に対し、「企業と連携」事業というのがある。訓練プログラムを開発し、最終的に就労技能を保障するプログラムである。しうがいを有する方を一般企業に就職させる目標が明確で、企業内に運営基準を持つ諮問委員会が設置され、就労に際してトレーニング機構が整備されていれば、政府や州から全面的に援助される制度である。

現在、QOL（生活の質）が呼ばれている。物質的な側面だけでなく、精神的にも生活の豊かさを示した自己実現の考え方方が求められている。我が国でもしうがいを有する方の社会参加を促進するために、あらゆる側面から環境整備を進めるとともに、機会均等を考慮した社会基盤の機能の醸成と体系作りが望まれている。

事務局 森田 誠

第46回タットン会 本日 6月17日の流れ 於 県立保健福祉大学

- 9：00～ 準備・受付
 9：30 本日の説明 ペアになって、カード読み・聞き取り 自己紹介・握手をしよう！
 体操（ディズニー or ラジオ体操）、各種目へ （持続回数に挑戦など）
 10：20 休憩 けん玉に挑戦！！
 10：40～ 後半競技～（試合形式に挑戦）
 11：10頃 パラシュート！
 11：20頃 片づけ・モップ、集合隊形
 （手話コーナー）・けがの確認
 11：40頃 解散



本日の担当者

チーフ：浜島 準備指示鈴木

継続受付：播岡 新規：林 新規説明：浅羽

5月20日のバドミントン・タットン会ルール講習会

《 今年度の予定 》

47回目 7/29 (上の台中学校)

52回目 12/16 (未定)

午前タットン会、午後13H～15H プール開放

2007年

48回目 8/26 (県立保健福祉大学決定)

53回目 1/20 or 2/7 (未定)

49回目 9/23 (県立保健福祉大学決定)

54回目 2/17 or 2/4 (未定)

50回目 10/21 (サブアリーナ決定) (市内中学校駅伝大会)

55回目 3/24 (メインアリーナ)

51回目 11/18 or 25 (未定)

「タットン大会」を開催の予定